

はじめに

わたしたち地域文化コースでは、研究法という授業で豊川市の御油・赤坂宿を見学しました。

その中で江戸時代から今も営業を続けている「大橋屋」に行きました。

その見学を元に、今回は名鉄東岡崎駅をスタートとしてこの大橋屋の宿泊プランをご提案しますっ！



初めての旅籠体験 ～御油・赤坂宿～

大橋屋

大きな提灯が目印！

- 正徳6年(1716年)建築の旅籠屋「大橋屋」。
- 享保18年(1733年)には83軒の旅籠がありましたが、大橋屋は其中でも大規模な旅籠でした。宝永6年(1709年)に起きた大火までは南側に4部屋、奥に20部屋があり、合計27部屋で営業していました。
- 安藤広重の「東海道五十三次 赤坂図」と題した旅籠風景の中で描かれたソテツは、明治20年頃道路拡張の為に近隣の浄泉寺の境内に移植されたそうです。



東海道唯一
の現存旅籠

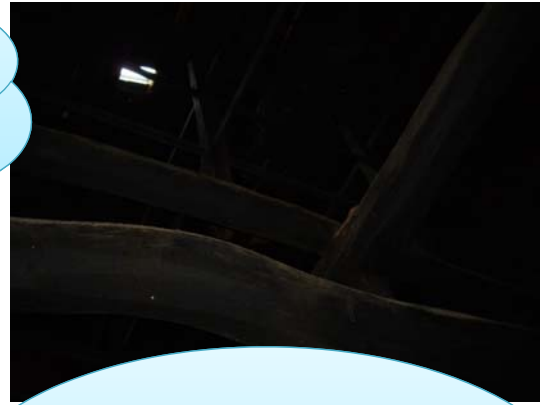


広重の浮世絵にも大橋屋が
舞台になっています
旅籠の内部がモデルになる
のは珍しいんだとか・・・



(暗くて見えませんが・・・)

天井に積まれた米俵は江戸時代から降ろされていないので、未だに中身が分からないそうです・・・



Σ江戸時代に使われていた道具が今も残っています！！ここに写っているのは、2階のお客さんにご飯を運ぶためのものでした。



天井が近い！？昔の日本人は今より背が低かったみたい・・・



広重の浮世絵のモデルにもなったソテツ

アクセス

愛知県豊川市赤坂町紅里127
【宿泊】和室(食事付)
10,500円



赤宿イベント情報

赤坂宿行灯祭り・・・8月上旬(約1週間)

雨乞い祭り・・・8月第3土・日曜日

赤坂大名行列・・・10月第2日曜日

赤坂宿本陣跡(付近)

本陣そのものは現存していません・・・



高札場も再現



関川神社

長保3年(1001)に創建。
境内に茂るクスノキの巨木は、樹
齢800年。豊川市指定天然記念物
に指定されています。
鳥居のすぐそばには、松尾芭蕉の
句碑があります。

夏の月の出ている間の短さは、
御油から赤坂の間を過ぎる時
間のように短い



アクセス



豊川市赤坂町関川 1 1 1
番地

御油の松並木

この松並木は、慶長9年(1604)徳川家康が植樹させたもので夏は緑陰をつくり、冬は風雪を防ぎ、長く、旅人の旅情をなぐさめてきました。

当初600本以上あった松は、長い歳月の間に減少してしまいました。しかし、現在残されている東海道の松並木の中では、規模・景観ともトップレベルで、東海道を代表する松並木です。

第二次世界大戦中の昭和19年(1944)11月7日、国指定の天然記念物となりました。



「東海道中膝栗毛」

十返舎一九の「東海道中膝栗毛」は、この御油も舞台になっています。

弥次さんと喜多さんの2人が、「御油の松原には悪い狐が住んでいて、よく旅人をばかにする」という噂話に振り回されます。

広重の浮世絵にも
その様子が描か
れているよー



アクセス



御油宿本陣跡

本陣は現存しておらず、看板だけが立っています。
お向かいには醤油工場があります。



アクセス



御油の松並木資料館

国の天然記念物に指定されている御油の松並木と東海道五十三次35番目の宿場として栄えた御油宿に関する資料が展示されています。

江戸時代の御油宿の街並みの復元模型や広重の浮世絵版画、近世交通文書や、旅装束などの資料約130点のほか、入口には大きな切株があります。



アクセス



豊川市御油町美世賜 1 8

音羽川



広重の浮世絵の舞台にもなりました。
春は桜がきれいだそうです



御油橋

音羽川に架かる橋。
広重の浮世絵の舞台にもなりました。

東（矢印：赤）に進むと、関所を避ける為の姫街道につながります。

西（矢印：黄）に進むと東海道を渡し、赤坂宿へとつながります。

【アクセス】
豊川市御油町橋際 1



おわり